

はっとい院長の健康トーク Vol.2

金沢市大友1丁目109番地

はっとい大腸肛門クリニック

服部 和伸

076-238-8101



痔について

痔の病気のなかで、いわゆる「いぼ痔」は医学用語では「痔核」といいます。痔の一般名と医学名をならべてみますと次のようになります。

いぼ痔→内痔核または外痔核
きれ痔→裂肛（れっこう）
あな痔→痔瘻（じろう）

痔のなかには多数の病気が含まれていますが、最も多いのは痔核の病気です。その次が裂肛で、痔瘻は三番目になります。さらに多くの病気がありますが、ここでは上記の痔核・裂肛・痔瘻についてお話しします。

痔核は直腸～肛門粘膜下の血管がふくらんだものです。直腸の下部にできたものを内痔核といい、これが肛門の外に脱出した状態を脱肛といいます。肛門の皮膚の下にできたものを外痔核といいます。内痔核は20歳頃より発生し、年とともに大きくなっていき、出血や痛みを伴うようになります。30歳頃から症状が強くなり、40歳代で病院を受診することになります。50歳代からあとは痔が急に悪くなることは少なく、若い頃からあったものがさらに進んでいきます。

50歳を過ぎて急に出血などの症状が出はじめた場合は腸の病気であることも多く注意を要します。

裂肛は比較的若い女性に多い疾患です。肛門の表面は肛門上皮という薄い皮膚でおおわれています。皮膚が薄いだけに裂けやすいのです。肛門はふだん締まっていますが、排便の時だけ広がるのですが、固い便が通過するときに浅い創がつき、紙に少しづつ程度の出血があります。普通はこの創はすぐに治ってしまいますが、便秘症で固い便が出たり、肛門が狭かったりして無理をしたりすると、繰り返し創がつき、肛門括約筋がけいれんし、痛みを伴って治りにくくなります。

痔瘻は、比較的若い男性に多く、普通は肛門周囲膿瘍という形で発生します。直腸と肛門の境は、歯状線といって波形になっており、その凹みは肛門小窩と呼ばれています。その奥に肛門腺という、粘液を出す腺があります。腸内には無数の細菌が常在していますが、たまたま細菌が肛門小窩から肛門腺に入り込み、感染を起こすことがあります。ひどい感染がおこれば、肛門周囲膿瘍となり、これが外に破れて慢性化したものを痔瘻といいます。

最近では生活様式・食生活の欧米化とともに、**潰瘍性大腸炎やクローン病**などの炎症性腸疾患が増えています。これらの病気は若い世代がかかることが多く、通常は粘血便、下痢、腹痛などの腹部の症状で発症しますが、裂肛や痔瘻などの肛門部の病変で初発することも多く、若い方の肛門疾患を見た場合にはこのような疾患を念頭に置く必要があります。